

大切なのは、歓待の心

沖縄県立首里高等学校 二年 玉城 緋奈子

現在、沖縄では、外国人観光客や留学生が年々増えて来ています。それに伴い、商業等の第三次産業では、外国人を対象としたサービスや施設が多様化しています。私は外国人向けのビジネス等に賛成の意を表す反面、一つ疑問に思うことがあります。それは、企業ではなく、いち沖縄県民として外国人を受け入れているかということです。私は、もっとひとりひとりが外国人と向き合い、相手を理解したほうがよいと考えます。そう思うのは、私の体験を通してより感じたからです。

私は、小学四年生の時、祖父母と私の家族でハワイへ行きました。私は初めての海外旅行で、最初は期待より不安の方が大きくありました。しかし、過ごすうちに、私の心境が徐々に変わっていきました。例えば、お店へ行くと、元気な店員さんが明るく挨拶をし、積極的に話しかけてきます。また、道に迷った時も、現地の方が、地図を使い、身振り手振りで優しく教えてくれました。おかげで私は、初めての海外旅行を、とても楽しく過ごすことができました。英語が分からない私たちに積極的に接してくれる、ハワイの方々の温かさを感じることができました。

そして、私は最近、母から驚くような出来事を聞きました。それは、母が買い物へ行った時のことです。外国人が店員に、探している商品の場所を尋ねた時、店員は最初は戸惑いながらも教えていたそうですが、相手に伝わらないと分かったと、すぐにその場から立ち去っていったそうなのです。この対応は、適切であったかどうかという点では、不適切だと思いますが、私はこの店員の気持ちも分かります。外国人から急に話しかけられたら、戸惑うし、早くこの場を逃げ切りたいと思うはずです。特に、日本は外国と比較すると、内気な性格の人が多く、外国人に対して気軽に話しかけにくいものです。

また、このようなケースもあります。外国人が沖縄を訪れた際、マナーが悪かったり、場に合わない言動をしていると、「外国人だから仕方ないか」と思うことはないでしょうか。これは誰もが一度は感じる事だと思います。一見、外国人を受け入れているように思える対応ですが、実は、間違った行為を指摘することを避けているにすぎないのです。

つまり、どんなに学校の授業で外国の文化や習慣について習い、「異文化理解が大事だ」と教わっていても、いざ外国人を目の前にすると、私達日本人は一步踏み出す勇気が出ないのです。

しかし、このままで良いのかと今一度自分の心に問いかけて欲しいです。私も以前は外国人の先生や観光客に道端で話しかけられた時、何をどうやって伝えていいのかわかりませんでした。しかし、首里高校に入学し、私は少しずつ変わっていったのです。周辺には首里城や歴史建造物が沢山あり、外国人観光客に話しかけられることが多くなりました。最初は戸惑うこともありましたが、身振り手振りを交えて自分の分かる英語で伝えようと必死に

なると、相手が理解してくれたのです。

私はとても嬉しかったと同時に、あることを学びました。それは、他者を理解しようとする態度を示すことが大切だということです。これは、私が体験したハワイでの出来事と共通しています。これを機に私は、笑顔で外国の方と会話をしたり対応したりすることができるようになりました。

以上のことを踏まえて、私は、みなさんに伝えたいことがあります。それは、「大切なのは、英語力ではなく、他者と向き合い、理解しようとする姿勢だ」ということです。外国から沖縄を訪れる方々には、沖縄の人の温かさを知ってほしいと思います。言葉を知らないことを恥ずかしく思う必要はありません。たとえ言葉は通じなくても、歓迎していますという思いはきっと伝わります。また、それは、県民ひとりひとりの心がけにより成り立つことです。ぜひ、一人でも多くの方に沖縄へ足を運んでもらうために、歓待の心で人々を迎えましょう。沖縄県民の人柄の良さをアピールすることは、沖縄観光のリピーターを生み、沖縄県全体の活性化に繋がるはずです。

グローバル化していく今日、私たちは沖縄のこれからのために、歓待の心を持ち、「ようこそ、沖縄へ」と言える態度をみんなで示していきましょう。